

## Vリーグ記者懇談会（2023年2月15日）議事メモ

今回の懇談会は、本日の理事会を終えて、前回の懇談会でもお伝えしていた、中期改革についての大枠、更にはこれから何をしなければいけないのか、ということをお伝えするもの。

### ■大河副会長 冒頭挨拶

中期計画の大枠とこれから何をしなければならないのかをお伝えする前に、前提として3つ、個人的な思いを含めお話しをします。

1つめ、Vリーグは一般社団法人であるということ。同じ目的、目指すべきところを同じにしている仲間が一般社団法人です。Vリーグ機構の経営の軸となるミッション・ビジョン・バリューをチーム等で合意したいということに力を注いできた。

2つめ、困ってないVリーグという言い方、少し変な言い方なのですが、Jリーグは開幕に際してオリンピックに長く出られない、ワールドカップは夢のまた夢、強敵韓国に勝てないという状況だった。韓国のプロ化を受けて、プロ化しか道がないという追いつめられた状況でプロ化をしてJリーグが誕生した。バスケットボール界は男子トップリーグが2つに分離しており、国際試合出場停止という制裁を受けていた。FIBAという黒船からの圧力を受け一緒にならざるを得なかった。

二つのプロリーグと比べると、バレーボール界はオリンピック、世界選手権にも出て、それなりの成果を上げている。バレーボール全体、特に代表を見ると集客もできていて、困っていない。一方Vリーグは2011年から改革を続けてきたものの、同じアリーナスポーツであるBリーグと事業規模、お客様の数にかなり差がついてしまった。ただ世界での地位を見ると、まだ困っていない。そこの困っていないと感じている人と、危機を感じJやBのようにバレーボール界をもっと活性化させていきたい、というような思いが常に交錯している中で、今回経営の軸を定めていく作業をしてきたつもりです。

また、3つめですが、よく聞かれるプロにするのかアマにするのか、といった質問に対しては、私の結論として運営法人を持ってプロとしてやっていく話と、選手がプロかアマかという話は違うと考えている。バレーボール界はアマチュアでもトップリーグで活躍できる、そしてセカンドキャリアも含めて保証されている。そんなところはJやBにない長所でもある。一方で、Bリーグでも1億を超えるような日本人選手が出てきている中で、Vリーグもプロ契約をしている選手に夢があるようなリーグにしていかなければならない。そんな思いを持ちながら今回、V.LEAGUE REBORN というのを作らせていただいたということでもあります。

## 一本論

経営の軸という観点でいうと、3つを掲げている。  
何か迷ったことがあったら原点はここに帰りたい。

### ■ミッション/果たすべき使命（成し遂げたい目標・存在意義）

強く・広く・社会とつなぐ

- ・強くーリーグの競技レベル向上はもちろん、  
稼ぐ力をつけて事業規模を大きくする。ガバナンスの再構築を行っていくこと。
- ・広くー選手を応援する文化は既にあるが、一方で地域に根差したチームを応援していくカルチャーが出来ないとお客様は増えていかないと考える。  
ホーム&アウェイの考え方を定着+試合数の確保を協会とともに進めていくこと。  
新規ファン獲得、次世代の育成も広く、という意味合いもある。  
選手の迫力のあるプレーを見たいと思うファンを増やしていく。もっとファン層を広げていく
- ・社会とつなぐーバレーボール教室などを中心に地域貢献活動を行っているが、バレーボール教室に限らず地域の課題解決に V リーグを使って、ホームタウン活動も含めて活性化していく。

### ■ビジョン/目指すべき姿（目指す将来の姿・理想像）（時間軸で変わるもの）

世界最高峰のリーグ ～GO FOR 2030～

2030 年に向けて世界最高峰のリーグを目指して行こうということを合意した。

- ・世界最高品質のゲームを提供するべく世界からトップ選手が集まってくるリーグ
- ・世界最高峰のリーグとは、例えばイタリアのセリエ A を上回る観客数、地域や社会とバレーボールコミュニティがつながっていくリーグ。

### ■バリュー/やるべきこと 行動指針・共有する価値観

GATHER ~集まる~

V リーグというプラットフォームを使って、色々な意味で、企業の方や、市民・ファンの方やいろんな人が集まってくれるような「GATHER」。

### ■今後の進め方

大枠な議論は済んでいるため、2024-25 シーズンからの試合の大会方式の細かなところ、細かいところを詰めていくことになる。

2つの分科会に分かれる

- ・新しい世界のトップを目指す V リーグのチーム

- ・社会に広く全国各地の地域としっかりと向き合っていく V リーグのチーム
- ・分科会で定めていくこと

リーグの開催期間、試合数、対戦方式、プレーオフの形、外国籍選手のオンザコートルール、移籍のルール、ホームタウンの定義、アリーナの要件、これらをベースに議論。

3 月中に 3 回程度、4 月の運営会議、理事会で進捗を共有し決定していく予定。

#### ■規約規程の改定によるガバナンス強化について

一言で言うと、理事会が最高意思決定機関であるということを明確にしたルールにした。

現状の V リーグの規約規程では、スピード感をもった運営ができず、責任と権限の所在がハッキリとしない。

理事会に権限を持たせて、理事が責任を取っていくということ。

#### —Q&A—

**Q：プロ、プロではない。結局両方認める形で進める？**

**A：**最大限フェアウェーは大きくしたつもり。一方で、強く・広く・社会とつなぐというミッションがある。チケットを買ってお客様に観に来ていただくため、演出を含めたファンサービスなどはしっかりとやっていただく。お客様にお金を払って買ってもらっている時点である意味プロ興行だと思っている。プロ興行にふさわしいおもてなしや外国籍選手を含めた選手の編成などをお願いしたいというふうに伝えている。2024 年から（新リーグが）始まっていく中で、運営法人を持って独立採算でやった方が、この世界ではうまくいくと感じるチームも出てくると思う。選手も夢を見て、プロ化を考える選手が出てくるのではと考えている。そうならないと 2024 年からの REBORN が成功したとは言えないと考えている。

**Q：プロ契約やチームの社員契約としていくかはチーム方針にまかせる？**

**A：**スタート時はそうなる。2030 年を一旦のビジョンのゴールとしている。（新リーグ）が始まってくると良いも悪いも変化が生じる。ミッション・ビジョンを遂行するためにはどうあるべきか、ということは再度議論が行われることもあるが、スタートのタイミングはこれでいく。例えば、運営法人を作らなかったら、新しいトップリーグには加入できませんよ、というやり方もあるかもしれない。ただ、最初に話した通り、バレーボール界自体が困っていると感じていない人もいるし、切羽詰まっていない。そんな中で無理なかじ取りはしない方が、むしろ成功には早道かなという風に考えたと理解していただきたい。

**Q：参加要件は？例えばBはアリーナ3000人など。ライセンスの財務状況の線引きなどの考え方は？**

**A：**参入要件について。先ほど伝えた分科会は、大会の方式や日程を主に定めるが、ライセンス制度は残り、変えていくところは変えていく。アリーナ要件や、ホームタウンで8割行っていく。といったことは、大筋の中で合意されている。今現在実際に8割に行っていないチームも多々あるので、これを2024年に全て8割にはならないかもしれないが、猶予期間を設けながらもその方向に行くようなライセンス制度を設けて、ゆくゆくはその要件に適合しない場合は将来的にトップの方には加入できないという風な可能性は残っている。

**Q：ホームタウン。チーム名の問題は？地域名など、方向性を**

**A：**チーム名、呼称、略称と3つがある。その中で今合意されているのは、チーム名の中にはホームタウン名（都市名、県名？はまだ定めず）を入れたものにしてほしいということは、要件とすることで合意している。呼称はチーム名をマストとはしない予定。

**Q：今朝の報道に出た、最大16チームとは正しい？**

**A：**ダイジェストさんの記事は読んだ。どこからリーグされたかはわからないが、概ね書いてある方向に間違いはない。

世界最高峰といったときに、世界トップレベルのチームが何チームできるか？新たなトップリーグのライセンスを通過できるチームが何チームあるか？そしてどう成長していくのかといったことは非常に課題だと思っている。我々がメルクマークとするセリエAは男子14、女子12となっている。少なくともいきなり14となるかはわからないが、2030までには14を上回るような、トップのチームがあるような、日本のVリーグにしていきたい。最大16ぐらいを目途に考えている。

**Q：現状のリーグでは特にV1格差が激しい。ここまでの差が出ている現状に対して？**

**世界最高峰のリーグの担保は叶うのか？ビジョンを知りたい。**

**A：**Bリーグは2016年当初東地区が強く西地区弱いといったが偏りがあり、苦情も多く来ていた。7シーズン立ったいま、一番強いのは（当初弱かった）西地区になっている。そういうことから、まずは事業の規模を大きくしていく。伝統的に実業団の方がバレーボール界を支えていたことは間違いなく事実であり、そこは当然リスペクトをする。一方で、Vリーグ男子全体を見ると、（V2、V3まで含めて見ると）プロチームの方が今は数的には多くなっている。しかし、V2はホームゲームの試合がV1の1/3程度しか開催できない。これでは事業のパイは大きくならない。ホームゲームがあまりできない、スポンサーも集めづらいといったところが解決したら、ひょっとしたら伸びてくるチームがあるかもしれない。そういうような期待値がある。他には、Bリーグは作ったときに契約選手を13名とした。特別指定の選手などをのぞいて。それによって選手数が多いチームは一部選手を放出せざるを

得なかった。まだここはチームと話し合いにはなるが V リーグでも、例えば登録選手数がある程度アッパーを決めて、それ以上に抱えている選手はレンタル移籍も含めて他チームに出して行くみたいなことも含めて。いきなり戦力の均衡化はできないとは思っているが、魅力的なチームを作り、事業規模を大きくして選手を獲得していく。そういう日がそんなに遠い時代ではなく、来るべきだと思う。

**Q：選手の上限人数。試合数が年間 40~50 など。代表のことを考えると、かなり過密日程になっている。B などは主力チームだけが人続出の状況なども起こっている。どこまで現実的に試合数？**

**A：**サッカー、バスケも常に過密といわれる。例えば怪我をする選手が多かった時に、試合の出場数、出場時間が多い選手が怪我しているのか、といわれるとそこに相関、因果関係があるかどうかはわからないと思っている。

本当の世界最高を目指すならベストコンディションで、試合間隔をあけてやるというのも一つの考え方だと思うが、サッカーなどのグローバルな選手（クリスティアーノ・ロナウド、リオネル・メッシなど）はどれだけの試合に出たのだろうか。と思うと、それだけのフィジカルを持っているからこそ、世界最高峰であり、いい選手だという風な考え方も私はできると思う。加えて言うと、1 セットに 6 回交代ができるというルールがあるが、FIVB にとらわれず、多少のローカルルールを入れることも可能ということもあると思う。NBA の選手や大谷翔平選手もそうだが、シーズンフル出場しているということは殆どない。それが世界最高峰ではないかと思う。なので、ある程度ターンオーバーしながら、選手も休ませながらできるくらいの力量の揃った選手があつまることなども考えていけたらと思っている。

**Q：試合数 40~50 は収益性を考えたときに、最低でもこの試合数は必要という考え方？**

**A：**それもあるが、世界のリーグを見つつ、セリエ A やポーランドのリーグなどの開催期間や日程を研究したうえで、日本でどれくらいの試合数でやっていくのかなどを考慮して、できるだけ多くの試合を行い、シーズンを長くとれたらいいかなという風な議論はしている。

**Q：ライセンスについて、新参戦の収益と予算規模想定は？**

**A：**収益の内訳は考慮せず、だいたい 4 億円以上あるということを新しいトップリーグの最低の目途としたい。例えば、運営法人を持たずに企業の中にチームがあるところがある。その場合は管理会計といい、チームを一つの会社、事業部門として分社化した際にどれくらいの予算でやっているのかを示してもらい、4 億円以上ということを確認させていただくと考えている。支出経費には、人件費も考慮している。現時点でサラリーキャップは考慮していない。1 億円の選手というのはなかなか出てこないなかで、まずはプロ選手の年俵が平均して上がったことを確認してから、サラリーキャップは考えていく話。そこまでにサラリーキャップを入れてしまうと、縮小していってしまうと経験則的に思っているの、歯を食いし

ばって事業規模を競争し合えるようなリーグになった時に、2030年に向けての階段を一つ一つ上っていけるのかなと考えている。

**Q：過去に何回もとん挫している。トップリーグ（V1）にいるチームの参加意向は？**

**A：**これからライセンスの申請があるため、リーグを作り直していくことになるので、そこで最後の確認をすることになる。フェアウェーを広げたこともあって、ほぼほぼいろんなチームが24年の新リーグにチャレンジしてくるのではないかと感じている。あくまでそれぞれの会社の決定事項のため断言はできない。

**Q：スケジュール感。24年からの試合数は確定？**

**A：**タイトなスケジュールであることは認識しており、臨機応変に対応してかなければならない部分はあると思うが、24-25からのスタートはチームから合意を得ている。

**Q：法人化、分社化は求める？**

**A：**基本的には分社化は求めない。ラグビートップリーグなどもそうだが、一旦走り出して一定の試合をこなしながら演出、チケット収入、スポンサー、観客を増やしていくお手本になるようなチームが増えてくるのではないかと思う。そこを見て事業化する為には、分社化した方が良いと判断されるチームが個人的には増えてくるのではないかと思う。ただやってみないとわからない。バレーボール単体では、どんどん黒字化するというほどのレベルに達するにはまだ時間がかかるかと思うが、適正な収支管理、特に稼ぐことをしっかりやっていけばできるのではないかと考えている。逆に言うと、企業チームが福利厚生費で行うという考えを排除することは今一切ない。

**Q：財務を確認するチームはできる予定？**

**A：**今もライセンス審査チームがあり、そこで決算書類や、分社化していないところからいただいた収支のデータをまとめている。これから、その収入や経費の定義を定め、提出期限などをそろえていく。基本的には提出していただいた書類で審査していく。財務要件はなぜ定めるのかというと、4億円以上があることは必須だが、そのシーズンを通してちゃんと資金繰りが回って運営していくことができることをお互いに確認するために行っている。（個人として）100%コミットする時間はないものの、ライセンス業務は10年以上やってきた仕事でもあるので、レベルアップした再審査の仕方を行っていききたい。

**Q：財務要件間に合わないのでは？**

**A：**既に企業チームは4億以上予算規模を持っているところが多い。プロチームがそこまで持っていけるかはしっかりと向き合っていく必要がある。

**Q：今のリーグ V1~V3 の上に新リーグを作る？**

**A：**Vリーグという新たなリーグを1つ作る。その中でスペシャルな要件を備えたものをもう1個上に作る。簡単に言うと2部編成を考えている。

現在のリーグは再編する。ただ、今V1でやっているところが多分色々な要件を満たす可能性は高いであろうことは想像できるが、原則は審査を一からやり直す。

**Q：再編するということは、今あるチームの中から要件を満たしたチームとそれ以外の満たしていないチームの2つに分かれてリーグを行う？プレミアリーグなどのような形？**

**A：**一旦V1~V3フラットに並べる。その中で世界と戦えるようなトップを目指したいというチームで、ライセンス要件を満たしたところを、その上に一つリーグを設けるということを考えている。

**Q：声出し応援については？**

**A：**今週末の試合から、基本的に体育館のある自治体のルールを前提にして、細かいところは色々あるが、マスクをつけながらの応援は解禁する方向ということでチームへ通達。声出し応援は強制ではなく、行政との向き合い、チームの考え、など色々あるので、許容をするという進め方。

**Q：通達が起こったから、すぐに実施というわけではない？**

**A：**その通り。チケット販売を考慮して、もう少し控えるなど、チームの判断があればそれを尊重する。最終的には、開催地の自治体とチームの折り合いによる判断。

リーグの直轄大会は、基本的には声出し応援は可とする。得点時の声出しなどは基本OKで考えており、また個別にルール化をしていくことになると思っている。

以上